

【市民建設常任委員会所管分】

番号	所管課	要件	意見・質問・要望	調査結果
1	農林水産課	スマート農業について	耕作放棄地が増えている。農業の集約化が必要と思うが、スマート農業に関する予算は年間220万円だ。これで何が出来るのか。モデル地区を作って集約してやればどうか。定住対策も自然が豊かだけでは誰も来ない。	農業振興対策基金を利用した事業において、AI機器等の導入が徐々に進んでおり、今後、自走式灌水機や農業用無人車等が、随時農家のみなさまへ導入される予定とのこと。
2	農林水産課	農地について	高瀬町比地の成行地域の山を削って、畑をやっているらしいが、雨が降ると土砂が流れて危ないのではないかと。	ご指摘の通り、当該地は現状のままでは大きな降雨があると土砂が流れる可能性が高いため、地元自治体と協議を行ったり、県の指導を仰いだりしながら、排水や土砂流出対策を最優先に行っているとのこと。
3	農林水産課	農業振興について	有機農業の補助金について今年度は何かあるのか	三豊市では、今年度、農林水産省のみどりの食料システム戦略緊急対策の「有機農業産地づくり推進緊急対策事業」に応募し、有機農業を目指す生産者のネットワークづくり、有機農産物の販路の開拓、及び流通経路の確立について、取り組んでいるとのこと。
4	建設港湾課	道路について	鳥坂インターから接続する道路について、三野町方面の道路はきれいな道だが、高瀬町方面の道路は大型車が多く通るのに整備されていない。	三豊鳥坂ICへのアクセス道路は、県道220号(大見吉津仁尾線)となっている。ご意見のあった路線については、交通量などの利用状況も勘案しつつ今後の検討課題としたいとのこと。
5	都市整備課	高瀬駅周辺整備について	高瀬駅のトイレについてJRが何もしないと聞いているが、文化のまち三豊ならこのままのトイレでは恥ずかしい。	
6	都市整備課	高瀬駅周辺整備について	高瀬駅舎の建て替え、駅トイレ改修予定はありますか。	トイレを含む駅舎及び敷地はJR四国が所有しており、整備主体や財政負担について、JRとの協議を継続的に行ってきたが、未だに着地点を見出せておらず、応急処置としての仮設トイレについては、利用者ニーズやコストと照らし合わせたくえで、設置を見送ることとしましたとのこと。 今後は本庁舎周辺整備において、JR高瀬駅の在り方についても引き続き検討していくとのこと。
7	都市整備課	高瀬駅周辺整備について	高瀬駅のトイレの話が出たが、駅舎や駅の裏、トイレ等JRと協議して改善を	
8	都市整備課	本庁舎周辺整備について	旧高瀬町公民館・図書館の解体工事後の更地は、どのように活用するのか。	駐車場を含め、市民の皆さまにとって有用な土地活用を検討しているとのこと。
9	建築住宅課	空き家について	相続人が分からない危険な空き家の対応について	管理不全が見受けられる空家の対応については、市内の空家の数や分布および状態等に関する実態調査の結果や、市民等から問い合わせのあった情報をもとに、建築住宅課において現地確認や所有者等の調査を法令等に基づき実施したのち、適正な管理を文書等にて依頼しているとのこと。
10	環境衛生課	太陽光発電システム補助金について	電気代の上昇対策補助金等として、太陽光発電や環境性能住宅導入の補助金はないのか	電気代そのものに対する補助は無いが、今年度からZEH住宅補助制度を設けており、住宅の電力消費量を減らし電気代の負担を軽減するものとのこと。

番号	所管課	要件	意見・質問・要望	調査結果
11	環境衛生課	太陽光発電施設について	先程の話でもあったが、山肌に太陽光発電を設置するのは完全に自然破壊だと思うが、その辺はどう捉えられているのか。	出力が50kw以上となる太陽光発電を設置する場合は、「香川県太陽光発電施設の設置等に関するガイドライン」に基づき、県に対して手続きを行う必要があり、国から受けた認定通知書(写)を提出することになっています。今詫間町で進められているのは、県のガイドラインに基づき進められた事業とのことです。地元からは、いろいろな資料を揃えた上で改めて県に問い合わせをしようという段階になっていると聞いています。
12	環境衛生課	太陽光発電について	太陽光発電の設置に県の補助金は出ているのか	住宅に太陽光発電システムを設置する場合、新築住宅への設置は対象外だが、既存住宅への設置は1.3万円/kW(上限/5万円)の補助金が交付される補助金がある。
13	環境衛生課	環境対策について	<p>脱炭素と森林吸収について質問させていただきます。まず脱炭素についてですが、去年は貴議会においても一般質問等で複数回言及していただき、心強く思っております。未来世代の命に関わる問題なので、議員の方々も強い関心をお持ちだと思います。ご存知の通り、2030年までに温室効果ガスを半減させなければ未来世代は救えないという状況になっています。今、社会を動かしている私たちの今後数年の取り組みが、これから数百年以上にわたる未来世代の運命を決めると言われています。行政も脱炭素推進室の設置など、真剣に取り組んでくださっているところだと思います。けれども今のままでは子どもたち将来世代の命の保証ができません。脱炭素は負担ではなく、やったほうが得、やった方が勝ちという認識で、ぜひまちづくりの中心に据えて進めていただきたいと思えます。その観点から、2050年排出ゼロ宣言(または気候非常事態宣言)と脱炭素先行地域応募を今年度早い段階でぜひ行っていただきたいと思いますが、議員の先生方はどのようにお考えでしょうか。もう一点の森林吸収についてですが、昨年末の三木議員の一般質問に対する市の答弁の中で「管理がされていない天然林については、CO2吸収源にはならない」と言われていました。確かに、我々が吸収源としてカウントできるのは、人為的な管理によるCO2吸収というのがルールだと思います。それでも、林床や土壌中も合わせて豊かな生態系を形成する天然林は、人工林に比べ膨大な量の炭素を貯留している点で、脱炭素において非常に重要な役割を担っていますし、防災の面からも、生物多様性の面からも、私たち市民にとってかけがえのない財産と言えます。自然資本と言われるように、実際私たちが受けている恩恵は計り知れません。その点で、ある程度管理しながらの森林保全は脱炭素において重要だと思います。河川の管理についても同様だと思います。昔のようにコンクリートで固める工法から自然資源を生かす形に、防災・インフラ整備のあり方を変えていく時代になったと思います。詫間側カレイ峠の太陽光パネル設置に伴う乱開発のようなことは、天然林が蓄えていた膨大な量の炭素を空気に放出する行為になります。西山議員も指摘されていた通り、再エネといえどもパネルを山に設置するのはいただけません。再発防止が重要であると思いますが、何か方法はないのでしょうか。</p>	<p>脱炭素を含む環境対策については、常任委員会としても閉会中継続して取り組むテーマに選定しており、調査研究を行っている。執行部の動向を注視しながら、適宜政策提言を行っていく。</p> <p>クリーンエネルギーを創出する太陽光発電施設の普及促進は、脱炭素社会の実現に向けて重要な役割を担うものであるが、同様に、森林を適正に管理して保全することも重要である。事業者が積極的かつ適正に太陽光発電施設を設置・管理するため、太陽光発電施設の設置に関するガイドラインを策定している県との緊密な連携協力を求めていきたい。</p>

番号	所管課	要件	意見・質問・要望	調査結果
14	環境衛生課	環境対策について	<p>いつも市民のためにご尽力くださり、ありがとうございます。また、議会報告会をオンラインで開催していただけることに心から感謝いたします。コロナ禍が落ち着いても、オンライン開催は継続していただけるようお願いします。</p> <p>ここ数年、三豊市議会において、毎年のように気候変動のことが取り上げられるようになりました。時代の変化を感じるとともに、議員の先生方の真摯な姿勢を、心強く思っております。</p> <p>気候危機は年々深刻さを増し、今やらなければあとがないことは、疑いようのない現実です。</p> <p>最新の研究で、あと5年で世界の平均気温上昇が1.5℃を超える確率が66%であることが報告されました。去年までは、2030年ごろに1.5℃を超える確率が50%といわれていました。気候変動が私たちが思っている以上に深刻であることは、国連もIPCCも認めています。</p> <p>1.5℃で止められない場合、どれだけ深刻な影響が出るかはここでは書きませんが、行政にも、企業にも市民にも、大ダメージになることは必至です。特に被害を受けるのは、子どもたち未来の世代です。</p> <p>それから、気候変動以上に深刻なのが生物多様性の喪失です。自然の力ではもう回復できないところまで劣化していることがわかっています。</p> <p>気候も生物多様性も、私たちの生存の基盤となる、人類にとって最も大切なものです。たくさんある問題の一つではありません。そして、私たちが今取り組まないと、永久に失ってしまいます。これは決して大袈裟な表現ではありません。私たち大人は、子どもたち未来世代の命を守る最後のチャンスを手にしています。私たちが今なんとかしなければ、その命は守れません。</p> <p>国連もIPCCも繰り返し警告しています。なぜわかっていたのに、何もしてくれなかったの？と未来世代に泣かれたくありません。でも、このままではそうなってしまいます。</p> <p>どうか、三豊市議会でも今年度から、気候危機と生物多様性を最重要課題として、超党派で取り組んでいただけることを期待しております。行政も企業も市民も一丸となって取り組んでいけたら必ずいい方向に向かえると思います。</p> <p>未来世代を救えるのは、今社会を動かしている私たちの世代しかありません。特に、議員の先生方は大きなパワーをお持ちです。何卒、よろしく願いいたします。</p>	<p>脱炭素を含む環境対策については、常任委員会としても閉会中継続して取り組むテーマに選定しており、調査研究を行っている。執行部の動向を注視しながら、適宜政策提言を行っていく。</p>